

『いじめについて考える日』 校長講話

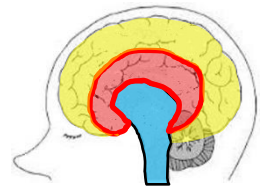
1 『いじめについて考える日』の目的について

今日は、『いじめについて考える日』です。「いじめは、人間として(絶対に)許されないこと」、このことを学校の全員で確かめるのが、『いじめについて考える日』のめあてです。今日は、みんなで「いじめ」について、しっかり考えたいと思います。

まず、『いじめについて考える日』をすることになったきっかけからお話しします。

2016年の夏休みに大阪市の小学校の代表の子ども達が集まって「おおさか子ども市会」というのがありました。その「おおさか子ども市会」の中で、一人の小学生から「『いじめについて考える日』を決めて、みんなで考えていけば、いじめが減るのではないか。」という提案がありました。それに対して、その時の大阪市長・吉村市長から「『いじめについて考える日』を決めることは素晴らしい意見です。いじめをなくしていこうと一人ひとりが思っています。」という答えがありました。

このことがきっかけで、大阪市立の全ての学校で、『いじめについて考える日』を毎年することになりました。



2 ヘビの脳

「脳」の話をします。

人間の頭の中には、「脳」があります。脳は勉強することに使われるだけでなく、みなさんが生きていくためのすべてを命令している大事な場所です。この脳は、大きく3つの部分に分かれているといいます。

1つめは、脳の一番真ん中にある「ヘビの脳」。(水色)

ここは、眠ったり、ものを食べたり、息を吸ったり吐いたりするのに使われ、生きていくためになくてはならない部分です。ヘビやトカゲなど爬虫類の動物には、この脳しかないので、「ヘビの脳」と呼ばれています。

2つめは、「ネコの脳」。(赤色)

「ヘビの脳」のまわりを包むようにあって、楽しい・悲しいなどの心とか気持ちにあたる部分です。この部分が働いて、泣いたり・笑ったり・怒ったり・喜んだりします。この部分は、ヘビやトカゲにはありません。猫や犬、牛などの動物が持っている脳で、「ネコの脳」と呼ばれています。

3つめは、一番外側にある「ヒトの脳」。(黄色)

言葉を話したり、ものを考えたり、覚えたり、勉強したりするのに使われる部分です。この部分は、人間しか持っていないので、「ヒトの脳」と呼ばれています。

人は、悪口を言われたり、いじめや差別をされたりすると、脳が傷ついてしまいます。「いじめ」は、脳を攻撃するのです。では、3つの脳のうち、どの脳を攻撃すると思いますか。

「①ヒトの脳 ②ネコの脳 ③ヘビの脳」

正解は、③の「ヘビの脳」です。「いじめ」は、生きるために一番大切な脳を攻撃します。ここは、人が生きる上でなくてはならない脳です。だから、悪口を言われたり、いじめや差別をされたりすると、眠れなくなったり、ご飯を食べなくなったり、最後は息をするのがつらくなったりして、生きる力がなくなっていくのです。

3 いじめは絶対に許されない

いじめた人は、だいたい「ふざけていた」とか「いじめていたつもりはなかった」と言います。自分がいじめをしていることに気が付かない場合すらあります。しかし、「いじめ」は人の生きる力を弱め、時には命を奪います。だから、だれも、いじめられる人になってはいけませんし、どの子ども、いじめをする人になってはいけません。もし、「いじめ」にあっても絶対にがまんしてはいけません。「いじめ」を見かけたら、見て見ぬふりをしてはいけません。

【いじめは しない！ 負けない！ 許さない！】

「いじめや差別をなくそう。そして、もし見付けたら、やめさせよう。」という気持ちを、みんなが強く持ってほしいです。校長先生は、東田辺小学校の全員が、友達と助け合い、仲良く生活することが、一番大切だと思っています。

4 「空気」

2014年に、いじめが原因で、自ら命を絶った中学3年生の男子生徒がいます。その子の名前は景虎くんです。景虎くんへのいじめが始まったのは、中学校3年生の1学期からだったそうです。クラスの一部の人から、「ウザい、キモい、死ね、上から目線」という悪口が始まり、次第に悪口はクラス全体の半分以上に広がっていったそうです。その中には、もともと景虎くんと仲がよかった友達も含まれていたそうです。

そんな時、夏休みに景虎くんは、作文を書いています。景虎くんが書き残した、その「空気」という題の作文を読んでみたいと思います。長い作文なので、最後の部分を読みます。

では、いじめの原因は何か伝えよう。それは、「空気」だ。空気というのは雰囲気などの方の意味だ。これが目に見えないものだから恐ろしい。いじめをしなければ自分がやられてしまうという空気、いじめに参加しないといけないという空気。そう、いじめの加害者・主犯でさえも空気によって動かされているのだ。

この問題を解決する方法はただ一つ…。みんなが親友になることだ。今、こいつはバカか、それができないからなくならないんだろうと思っただろう。でも同時に笑わなかっただろうか。そんな簡単な発想かと。そう、実はすごく簡単はずなのだ。そこに自分の損得が介入してくるから上手くいかない。人の笑顔は人を笑顔にし、その笑顔がまた別な人を笑顔にするとと思う。世界から笑顔がなくなれば間違いなく世界は滅ぶだろう。僕の好きな歌にこういう歌詞がある。「空気なんてよまずに笑っとけ、笑顔笑顔、笑うかどには福が来る」暗い顔をしていてもいいことは起こらない。

いじめの加害者は本当にごめんと一言いえば必ず許してもらえらるだろう。人からの情報を鵜呑みにしてはいけない。偏見や憶測だけでその人の性格を決めつけるのはよくない。笑顔で話さなければ相手の性格はわからない。

学校で習う数学の公式や英単語を忘れても笑顔の大切さだけは忘れないでください。

以上です。どう感じましたか。景虎くんは、いじめの原因は、クラスの人達が周りの友達のことを気にして生まれる「空気」だと言っています。話を合わせないと自分が浮くのではないかという不安。浮いてしまうと次は自分がいじめられるのではないかという不安。こういった空気がクラスにあれば、そこからいじめが生まれてくると指摘しています。そして、そんな空気を生まないために大切なことは、笑顔で話すこと。親友、仲のいい友達を作ること。だと、訴えていました。

今日の話をきっかけに、クラスの皆さんと一緒に、いじめについて考えてください。できれば、意見を出し合ったり、話し合ったりしてみてください。また、今週中にはいじめについてのアンケートもしてもらいます。

今日は、「いじめは しない！ 負けない！ 許さない！」ということや、「友達と助け合い、仲良く生活する」ことについて、しっかり考える日にしましょう。



東田辺小学校長 細川克寿